

【議事概要】

件名	第5回 健康くさつ21計画推進会議	
日時	平成24年10月15日(月) 13:30~15:40	
場所	草津市立さわやか保健センター視聴覚室	
出席者	委員 (敬称略)	今居、北村、北脇、佐野、角、田川、竹田、長谷川、福山、堀井、森田 (11名/20名)
	事務局	田中みどり、田中三男、藪田、田中優佳、岩崎、黒川、井上
		滋賀県立大学人間看護学部 臨地実習 学生6名

(失礼ながら、お名前については、苗字のみとさせていただきます。)

1. 委員長あいさつ

・楽しく、活発な協議をお願いします。

2. 本日の流れ

(事務局)

前回の会議でお伝えしていたとおり、本日も前回と同様の方法で平成17年から現在までの健康くさつ21の振り返りを行う。限られた時間の中での協議となるので、今回も事務局で事前にグループ分けをさせてもらい、進行書記も事務局でさせてもらうように各グループに配置させていただき、すぐに協議に入っていただけるよう準備させてもらった。健康くさつ21には6つの領域があるため、本日の会議で前回協議いただいていた3領域の協議をしていただきたい。過去に作成した資料等について各グループに配布させてもらっているので参考にしていきたい。このような進め方でよろしいでしょうか。

(委員)

了解

(事務局)

本日看護学生6名が見学参加させていただきたいが、よろしいでしょうか。

(委員長)

学生さんが見学とのことですが、どのようにさせてもらいましょうか。

(事務局)

6名こられているので、各グループに2名ずつ入らせていただけるとありがたいが、いかがでしょうか。

(委員)

了解(各グループ2名入っての協議)

3. グループ協議

各領域の方針・市民像・環境整備等を確認し、事務局が作成した資料をもとに今までの健康くさつ21の活動等について3グループに分かれ各領域ごとに振り返りを行った。

【Aグループ】今居、竹田、福山、佐野、藪田、黒川

【たばこ・アルコール】

・市民像として、「喫煙しない」とあるが、すべての市民に禁煙させることを目的とした活動は行っ

ていなかったし、それを目的にするのは少しずれている。これまでの活動では、受動喫煙の被害を受けやすい妊婦や子どもをターゲットとしてきたことを明記したほうがよい。ターゲットを絞って活動できてよかったし、今後もその目的を共通認識としていきたい。

- ・国の方針でも打ち出されているように、喫煙をやめたい人がやめられるような取り組みに変わってきている中で、健康増進課が行っている禁煙チャレンジ（禁煙相談）をさらに周知することが必要ではないか。
- ・学習指導要領に基づいた市内小学6年生への防煙教育だけでなく、学年を重ねるにつれたばこへの興味も高まり、誘惑も増えてくるため、低学年の頃から継続した教育が必要と考えて小学1～6年生まで継続した防煙教育をすすめるように当会議として提言を行った。会議として提言できることは大きな強みだと思う。しかし、現状でも6年生以外の学年への防煙教育を行えていないことは、市としての課題ではないか。
- ・市民が受動喫煙に困っているときに、市民自らが意見をあげやすいようにできないか。
ex) 店内でたばこのにおいがすると感じたらイエローカードを出すなど
- ・アルコールに対する取り組みは全く行うことができていない。飲酒については、まわりの大人の意識が低く、慶事に未成年が飲酒をしていることもあると思う。たばこへの取り組み同様、脳萎縮や胎児への悪影響を考えると、妊婦や子ども（未成年）を守るための取り組みが必要となる。現在の市民像では、「アルコールの母子への影響を知る」ことにとどまっているため、「(妊産婦が)影響を知り飲酒しない」ことを掲げて取り組みたい。そのためには、たばこに関する教育と同様に小学生の頃からアルコールについて教育することが必要ではないか。

《資料の内容に関する意見》

- ・「これまでの取り組み」について、健康推進員よっといで委員会の啓発内容・啓発方法・啓発場所等について具体的に記載したほうがよい。
- ・「これまでの取り組み」について、小学1～5年生へも防煙教育をすすめるよう提言したことは記載すべき。
- ・「現状値からみた課題」について、母子健康（親子）手帳発行時等に喫煙者がいることについて、「母子健康（親子）手帳発行時等に喫煙者が3%いること」、「喫煙歴あるが、今は吸っていない人が15%であり、その内の6割は妊娠をきっかけに禁煙していること」などの具体的なデータも記載した方が分かりやすい。
- ・「現状値からみた課題」について、受動喫煙の場所が0ではないとあるが、特に子どもや妊婦の利用する場所（公共施設、公園や自治会館など）は、受動喫煙ゼロの環境（禁煙環境）になっているのか把握し、記載できないか。

【歯の健康】

- ・草津歯・口からこんにちは体操の作成では、対象を高齢者だけに限定せずに全ての世代の市民が取り組むことができるように工夫した。現在も、老人クラブや子ども会での啓発や実施につながっていることはとても良いことだと思う。
- ・市民像の「かかりつけ歯科医をもち継続的に定期健診を受ける」ためのきっかけづくりとして、親しみやすいキャッチフレーズを作成できたことがよかった。今後は、キャッチフレーズを通じて、さらに定期健診の定着を図っていったらよい。

- ・乳幼児期に虫歯ができる子どもは嗜好品としてジュースなどを飲んでいる子が多い。ジュースからお茶や水に変えることで予防することができるなど、保護者が虫歯の機序を理解して実施できる対処方法の周知を図っていただけるとよい。

《資料の内容に関する意見》

- ・「これまでの取り組み」について、かむカムフェスタには平成22年度から3回参加しているため、今年度の内容のみを記載するのはどうか。毎年、啓発内容や実施内容は変更しているが、3年間参加して啓発していることも1つの成果だと思う。
- ・「これまでの取り組み」について、健康推進員よつといで委員会のエプロンシアターではターゲットを絞って幼稚園や保育園等で啓発をしていることを記載したほうがよい。
- ・「今後の推進の方向」にある「1人で多くのむし歯をもつ子どもとその保護者への指導・継続支援」はハイリスクアプローチ（疾患を発生しやすい高いリスクを持った個人を対象に絞り込んだ戦略方法）であり、これも健康づくりの取組。健康くさつ21会議としてはポピュレーションアプローチ（集団全体に対して働きかける戦略方法）に主に取り組んできており、取組の方法の違いを再認識できる。

《今後の推進の方向について》

- ・学童期のむし歯予防のための取り組みとあるが、滋賀県では以前よりフッ化物洗口を推奨されていると聞いているが、草津市の小中学校で実施できていないことは市の課題ではないか。歯磨きやフッ素塗布をしている子の歯はより強くなり、養育環境等により十分な口腔ケアのできない子の歯も強くできる。草津市に住んでいるだけで健康になれるような環境整備を図ることが重要であるため、会議として市に提言をしていきたい。

【生活習慣病対策】

- ・取り組みとしては、健康増進課での健康診査・がん検診等の実施が主であるが、市民像としての「定期的な健（検）診を受ける」ためには、小中学校での子どもへの啓発を通じた家族への啓発が有効ではないか。健（検）診についてはお金がかかるイメージが強いが、正しい情報が不足している部分があるため、正しい情報の提供や健（検）診の周知（健（検）診受診料金や受診方法、申込方法など）が必要だと思う。
正しい情報を持つことで、若い頃からけん診を受けることへの抵抗もなくなるはず。
- ・健（検）診を受けることができなくても、身近な場所で検査ができれば、自身の身体を大切にすきっかけになるはず。さわやか保健センターや市民センター等では自動血圧測定器を設置していることなどの情報を広く周知してはどうか。

《資料の内容に関する意見》

- ・「今後の推進の方向」について、地域に根ざした活動をしている団体は健康推進員だけではない。健康推進員等と記載したほうがよい。

※全体について

これまでの活動では、重点的に取り組む領域を年度ごとに変えていた。重点的に取り組む領域は変わっても、これまでに作成した啓発物などの財産を使いながら他領域を含めた啓発を続けていけるとよい。そして、大学などの市内関係機関や各種団体等への啓発・周知により取り組みを広げるとよい。

【Bグループ】 角、堀井、長谷川、田中三男、田中優佳

【歯の健康】

- ・草津歯・口からこんにちば体操での啓発について、百歳体操と一緒に実施することが多いように思うが、DVDを流す形では高齢者は2種類もテレビ画面を見続けることは集中力も途切れがちで工夫が必要。今後、啓発していく上でやりたくなるような楽しそうな雰囲気や視覚的な工夫が必要ではないか。
- ・歯と糖尿病との関連について、今後啓発していかないといけない。自覚症状がないとなかなか受診につながりにくいと思うが、糖尿病との関連性を啓発していくと定期受診にもつながっていくのではないだろうか。
- ・それぞれの年齢に応じた内容（歯周病疾患、乳幼児は嘔むこと、磨くこと、義歯の人の口腔管理等）を繰り返し啓発していくことが重要。
- ・子育て支援センターでは利用者がごっこ遊びに延長でぬいぐるみに歯磨きをしている場面があり、遊びを通して歯を磨くことの経験をしてもらっている。保育園では、事故に対応できないこともあって歯磨きを実施していないところもあり。
- ・自己流の磨き方になっていることがあり、節目で振り返られる機会が必要、子どもの時期からの啓発が大事。

【生活習慣病対策】

- ・がん検診無料クーポン券の使用期限が長すぎるとかえって「まだまだ期間があるから」と思いがちになり、行く機会を逃してしまうのではないかと。誕生日月をポイントに啓発等すると意識付けになり、受診率も向上するのではないだろうか。
- ・働き盛りの人のけん診受診率を向上するために、未受診の理由を把握することも必要ではないか。
- ・具体的な内容を丁寧に伝えていかないといけない。例えば「減塩しましょう」と言っても伝わらない。
- ・小学生の調理実習（味噌汁作り）の相談依頼を受け、学校とのつながりが持てた。
- ・他の領域のそれぞれの市民像に近づくと結果、生活習慣病対策につながる。

【たばこ・アルコール】

- ・赤ちゃん本舗、保育園前でのタバコの啓発は効果的であった。特に「受動喫煙」ターゲットを絞った啓発は効果的であった。
- ・妊娠中は禁煙していても、出産後喫煙を再開する人もおり、禁煙が継続できるとよいのではないかと。
- ・小学校（笠縫東）では身体計測時に養護教諭からタバコについての教育の場面があるとの情報提供あり。

【Cグループ】 北村、北脇、田川、森田、田中みどり、岩崎

【生活習慣病対策】

- ・健康くさつ21会議としての取組は特になかったが、健康増進課などによりけん診が実施され、受診率を上げるための取組が多くされている。

《けん診について》

- ・がん検診無料クーポン券は、受診のきっかけになってよかった。
- ・けん診が大切なことは分かっているが、受診につながらない人が多いので、どのような対策が要るのか考えていけたらよい。

- ・ 歯科健診、妊婦健診をもっとすすめていきたい。
- ・ 生活習慣病についての啓発…研修などを行い、より多くの人が病気について知ることができるように。
- ・ たばこ、口の健康、栄養（食事）、運動、心の健康（ストレス解消）といった生活習慣の改善への働きかけを、今後も継続的に行うことで、各種生活習慣病の発症を抑えることができる。生活習慣の改善により、脳血管型、アルツハイマー型ともに認知症の発症予防が図れる。高齢者の健康に欠かせない。

【たばこ・アルコール】

- ・ 健康くさつ21会議としては、たばこの取組がメインとなっていた。

《たばこ対策について》

- ・ 吸っている人へ、禁煙の働きかけをするのは困難。ただし、たばこの害が喫煙者本人だけへの害でないことが問題。
- ・ かつては、禁煙をすすめることをメインとしていたが、近年は「受動喫煙の防止」として、次世代を対象として活動しており、とても有意義だった。
- ・ 「周りの人への思いやり」という観点から、たばこについて、健康において啓発することが良かった。
- ・ 学校や全庁的に、市をあげての取組が必要であり、それを市に対する「提言」というかたちであげられたことは、これまでの健康くさつ21会議としてされていなかった方法で、今後期待したい。

《アルコール対策について》

- ・ 適量の飲酒は健康にも良く、楽しいため問題ない。問題は多量飲酒と飲酒方法（イッキ飲みなど）、飲酒運転など。
- ・ 虐待、育児放棄やDVなどの引き金にもなっており、見過ごせない問題。

【歯の健康】

- ・ 健康習慣において、歯の健康は欠かせない。あたり前のことであっても、丁寧に啓発を続けていくのが良い。
- ・ キャッチコピー…「歯みがき」は多くの人が大切さを知っているため、「噛む」ということを啓発するために作成した。噛むことは意識づけが必要で、良いキャッチコピー。今後も広げていきたい。
- ・ 口からこんにちは体操…もっと普及させたい。DVDを作っているのだから、より広く配布し、積極的に使うべき。
- ・ 小学校では、歯科衛生士による指導が各校行われるが、幼保ではきちんと行われていない。保護者を対象にして、実施ができればと思う。

4. その他

（事務局）

パワフル交流市民の日の参加について、前回の会議終了後「福祉のつどい」も同日・同時開催であるとの連絡を受けた。多くの市民がこられる場であるが、対象を絞ることも難しいと考えられるため、今回は、健康くさつ21の啓発も含め健康増進課でパネル展示をさせてもらいたいと考えているがよろしいか。当日展示物の説明スタッフも健康増進課でさせていただく。

(委員)

了解

5. 委員長あいさつ

各グループ楽しく協議できましたでしょうか。学生さんもお疲れ様でした。本日はありがとうございました。次回もよろしくお願ひします。